

大伴小だより

11月号



富田林市立大伴小学校 校長 岩片 啓子

富田林市南大伴町一丁目2番20号

0721-24-3104

ルールは一番弱い人を守るためにある



世の中には、改めて“ルールブック”なんていうものには書いていない様々なルールがあります。①安全のルール、②あいさつ、③公共のものを大切に、少なくともこの3つが守られていないと、みんなが安心して過ごせる社会ではなくなってしまいます。

たくさん子どもたちが生活している学校にも、みんなが安心して学び、元気に遊ぶために、「ルール」があります。廊下を走らない、チャイムが鳴ったら席に着く、友だちや先生の話をよく聞くなど、どれも「安全」と「思いやり」から生まれた大切な約束です。

ときには「少しぐらいなら」「自分は大丈夫」と思うことがあるかもしれませんが、ルールというものは、「一番弱い人を守るため」にあるものなのです。例えば、廊下を走ると、転んだりぶつかったりした時に、体の小さい子や、歩くのがゆっくりな子が、けがをしますよね。そうならないように廊下は走りません。朝、大伴小学校の前の道に通行規制がかかっているのも、子どもたちが安全に登下校できるよう、地域の方々が安心して道を通れるよう、警察が考えてくれたことです。



「自分だけ」とか「今だけ」と思ってしまうと、誰かの安全が守れなくなってしまいます。

ルールは、人をしばるためにあるものではありません。みんなが気持ちよく、安心して過ごすための『やさしさの形』です。自分のことだけでなく、「この行動は、周りの人を困らせていないかな」「小さな子が安心して過ごせるかな」と想像できる人が増えると、学校も地域も、もっとあたたかい場所になります。



ルールを、「守られるもの」ではなく、「誰かを思いやるための約束」として受け止めてほしいです。大人もまた、子どもたちのお手本として、ルールを守る姿を見せていけたらと願っています。

「ルールは一番弱い人を守るためにある」この言葉を胸に、子どもも大人も、安心して思いやりのあふれる毎日をつくっていきましょう。